

【お知らせ】

◆2017年フェロー候補者推薦公募について

電子情報通信学会では、本会規則第2条第5項により、「学問・技術または関連する事業に関して顕著な貢献が認められ、本会への貢献が大きいシニア会員に対し、フェローの称号の証を贈呈」しています。エレクトロニクスソサイエティでは、皆様方からご推薦いただいた方の中からフェローピアレビュー委員会と執行委員会でフェロー候補者を選定し、学会本部のフェローノミネーション委員会に推薦します。本年の推薦期間は4月1日から6月30日ですので、エレクトロニクス分野でフェローの称号にふさわしい方のご推薦をお願い致します。なお、フェロー推薦に関しては以下のURLに掲載されておりますので、ご覧ください。
<<http://www.ieice.org/jpn/fellow/suisen.html>>

◆シニア会員の申請について

シニア会員推薦規程が改正され、申請書及び推薦書の提出は年間を通して可能となりました。6月30日までに提出された申請書及び推薦書を当該年度の審査対象といたします。詳細は、電子情報通信学会の下記WEBページにも掲載されています。

<<http://www.ieice.org/jpn/senior/index.html>>

- ・2017年シニア申請〆切：2017年6月30日
- ・申請資格：本会が関連する技術分野に原則10年以上従事しており、本会会員として累計在籍年数5年以上の正員、あるいは顕著な業績・貢献が認められる正員。
- ・申請方法：シニア会員申請ページからの自己申告です。

◆エレクトロニクスソサイエティ学生奨励賞について

2017年総合大会（2017年3月22日～25日、名古屋市、名城大学）において、第20回エレクトロニクスソサイエティ学生奨励賞の審査を行います。本賞はエレクトロニクス分野における優秀な発表（一般講演、シンポジウム講演）を行った学生に対して贈呈するものです。概要は以下の通りです。

* 選定対象者： 次のすべての条件を満たす方。

- (1) 講演申込の際に筆頭者かつ講演者として登録し、かつ実際に講演を行った者。
- (2) 過去に電子情報通信学会の学術奨励賞、及び本賞を受賞したことがないこと。

該当者は自動的に本賞の選定対象者として登録されますので、申込み手続きは不要です。

*表彰： 2017年総合大会のエレクトロニクスソサイエティのプレナリーセッションにおいて、下記3分野それぞれについて2名の方に表彰盾および賞金（30,000円）を贈呈します。

イ) 電磁波理論およびマイクロ波

(電磁界理論、マイクロ波/THz、エレクトロニクスシミュレーション)

ロ) 光半導体およびフォトニクス

(光エレクトロニクス、レーザ・量子エレクトロニクス、マイクロ波・ミリ波フォトニクス、
ポリマー光回路、集積・超高速光エレクトロニクス、シリコン・ナノフォトニクス)

ハ) 回路およびエレクトロニクス

(電子部品・材料、電子デバイス、シリコン材料・デバイス、電子ディスプレイ、機構デバイス、
磁気記録・情報ストレージ、集積回路、超伝導エレクトロニクス、有機エレクトロニクス)

◆エレソ News Letter 研究室紹介記事募集研究室紹介記事を募集します。

今年度も昨年度と同様に、【短信】研究室紹介のコーナーに一般公募記事の掲載も予定しております。研究紹介の機会として奮って応募下さい。

*応募方法： タイトル、研究室名、連絡先 (e-mail) を下記応募先までご連絡下さい。

応募多数の場合は選考の上、編集担当より、フォーマット書類一式をお送り致します。

*応募先： エレソ事務局 (h-sakai@ieice.org) TEL:03-3433-6691

これまでの記事は、下記URL エレソニュースレターのページに掲載されております。ご参考下さい。

<http://www.ieice.org/es/jpn/newsletters/>

◆エレソ News Letter の魅力的な紙面づくりにご協力下さい

本News Letterは、エレソ会長、副会長からの巻頭言や論文誌編集委員長、研究専門委員会委員長からの寄稿を中心に、年4回発行しております。今後、さらに魅力的な紙面づくりを進めるため、エレクトロニクスソサイエティでは、会員の皆様から企画のご提案やご意見を募集いたします。電子情報通信学会エレクトロニクスソサイエティ事務局宛 (es@ieice.org) にご連絡をお願いいたします。

◆エレソ News Letter は年4回発行します。次号は2017年4月発行予定です。

編集担当：小久保 (企画広報幹事)、山之内 (編集出版幹事)、横内 (研究技術幹事)

[編集後記]

エレクトロサイエティ新体制での **News Letter** 第二号となる今号では、企画広報財務担当の津田副会長からのご挨拶と、各賞受賞者の皆様からのご寄稿をいただきました。記事を執筆下された関係者の皆様に御礼申し上げます。今年は電子情報通信学会創立 100 周年の節目の年となりますが、情報通信技術は今後さらに多様な分野に活用を広げていくものと思います。多様な分野の方々が情報を共有できる場として **News Letter** を活用いただけるよう尽力したいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。(山之内)